

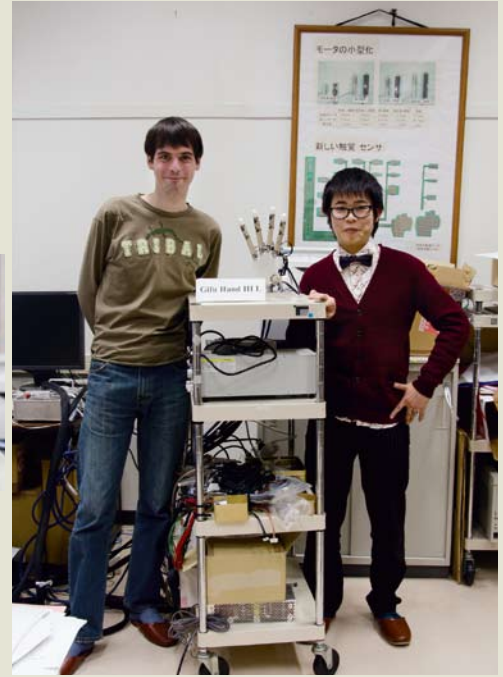
岐阜大学工学部が スペインのカルロス3世大学工学部と 学術交流協定を結び、調印式を開催

平成25年11月6日(水)

岐阜大学工学部とスペインのカルロス3世大学(Universidad Carlos III de Madrid)工学部が、学術交流協定を締結しました。きっかけは、ロボット工学を専門とする3世大の教授が、工学部の川崎・毛利研究室の開発した人間型ロボットハンド「Gifu Hand」に興味を示したことです。協定には、留学生の授業料免除や単位互換、共同研究の推進、セミナー開催などが盛り込まれました。11月6日(水)に行われた調印式では、六郷恵哲工学部長とカルロス・バラゲル副学長が協定書を取り交わしました。岐阜大学では平成24年度から3世大の留学生2人を受け入れ、平成25年9月には大学院生を派遣しています。



複雑多様で器用な操作ができる人間型ロボットハンド「Gifu Hand」。人間の指関節と同じ関節数と自由度を持つ。平成18年度文部科学大臣表彰受賞



INTERVIEW

カルロス3世大学へ留学
平成25年9月(3週間)

粥川 正康 さん

大学院工学研究科
人間情報システム工学専攻
川崎・毛利研究室2年



優秀な研究者や新しい文化に刺激を受け、 専門的な英語も身に付きました

私たちの研究室にはオーストラリアやブルガリアなど、世界中から留学生が訪れます。彼らと接するうちに他国の文化に興味を湧き、視野を広げたいと留学を決めました。

私が携わっている研究は「筋電義手」です。これは皮膚の表面に流れる微弱な電流、筋電信号で動く義手のことで、私は信号を義手の動きに割り当てるプログラミングを担当しています。このロボットハンドの動力はモーターです。一方で、3世大が開発しているものは、形状記憶合金の加熱による伸び縮みで動きます。留学中は、持ち込んだ信号データが現地のロボットにどのように対応するかを研究。形状記憶合金の冷却に時間がかかることから、動作が遅れることが判明しました。現地には日本語非対応のソフトウェアしかなく、すべて英語で書き直す作業に手間と時間がかかりました。しかし、研究者同士で交流を深めるうちに専門分野の英語が身に付き、彼らのレベルの高さに刺激を受けました。空き時間にはチュロス屋を訪れたり、寿司パーティーを開いたり、留学生第1号として、研究だけでなく親睦を深めることができたと感じています。

留学は未知の世界に出会い、成長できるチャンスです。後輩たちにも、ぜひチャレンジしてもらいたいです。

川崎・毛利研究室へ留学
平成25年10月～(1年間)

アレハンドロ・ルンビエル・
アルバレス さん

カルロス3世大学工学部ロボット工学 研究員



先進的で魅力的な技術を学ぶことができ、 有意義な滞在になっています

私はカルロス3世大学で3Dカメラを用いたロボットハンドの研究を行っています。人の手の動きをカメラで撮影し、それを解析して運動や位置をロボットに伝えて動かす研究です。川崎・毛利研究室の「Gifu Hand」は精度が高く、まるで本物の人間の指のように動きますし、指の中にモーターが内蔵されているのでコンパクトで軽量です。先進的な機構に魅力を感じています。また、人が指先で感じる物の重力や硬軟などを再現できるロボットハンド「HIRO」も素晴らしいと思います。この留学プログラムは、こうした自国にはない技術を学ぶことができるとても良い機会です。現在は両大学の技術を融合し、手にはめたグローブから関節の角度のデータを取得して、「Gifu Hand」を動かす研究を進めています。

私は今、日本語を勉強中です。研究室の皆さんに助けてもらうことも多く、研究環境の素晴らしさと日本人の義理堅さを感じています。ただ、スペイン人に比べると、初対面で打ち解けることの難しさも感じました。もっと日本を理解したいので国内を旅行したいですね。

研究を継続し、将来はどこかの国の大学で教授として務めることができたらと思っています。

「教育推進・学生支援機構」の表札上掲式を行いました

平成25年12月1日(日)

入学から卒業・修了まで一貫した修学支援体制を構築し、全学的教育及び学生支援を推進することを目的に、「教育推進・学生支援機構」を設置しました。組織は7部門と1つのプロジェクトセンターからなります。学生スタッフも交えた対話と協働を重視し、横断的な連携体制の構築を目指すことで「学生の基盤的能力の推進」等の複合的な課題を遂行します。



岐阜大学教育学部附属小・中学校「創立60周年記念式典」を開催しました

平成25年12月4日(水)

附属小・中学校「創立60周年記念式典」をヒマラヤアリーナにおいて開催しました。附属学校の卒業生で、東京藝術大学教授・アーティストの日比野克彦氏が記念講演を行い、小学1年生から中学3年生までの全員でワークショップに挑戦。「人間時計」と名付けた集団芸術を作り上げました。式典に先立ち、日比野氏の寄贈作品の除幕式も行いました。



岐阜県情報技術研究所と連携に関する覚書を締結しました

平成25年10月1日(火)

工学部と岐阜県情報技術研究所(岐阜県各務原市)は、両機関の相互発展のために連携・協力する覚書を締結しました。今後は情報化社会におけるものづくり技術の支援や、情報技術の専門的知識を有する人材育成に努め、地域産業や情報産業の振興を図ります。締結式では六郷恵哲工学部長と稲葉昭夫所長が覚書に署名しました。



「環境ポスター」の表彰式を行いました

平成25年10月16日(水)

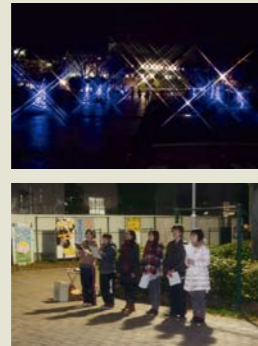
岐阜大学は十六銀行との間で「岐阜大学と十六銀行との環境保全における連携に関する覚書」を締結しています。これに基づき、環境問題に対する意識啓発に役立てるため、「環境ポスター」のデザインを教育学部附属小・中学校の児童・生徒から募集しました。金賞2作品、銀賞3作品を決定し、附属小・中学校で表彰式を行いました。



「岐阜大学イルミネーション」の点灯式が行われました

平成25年12月11日(水)

学生たちが自主的に企画した「岐阜大学イルミネーション」。昨年に続き「基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業」に採択されています。今年は約2カ月前から準備を開始。点灯式では、実行委員長の大塚しおりさんと佐々木実教育推進・学生支援機構キャリア支援部門長が挨拶した後、カウントダウンとともに本部棟西のイルミネーションを点灯しました。



岐阜大学長期インターンシッププログラム(GULIP)の最終成果報告会を開催しました

平成25年12月17日(火)～26日(木)

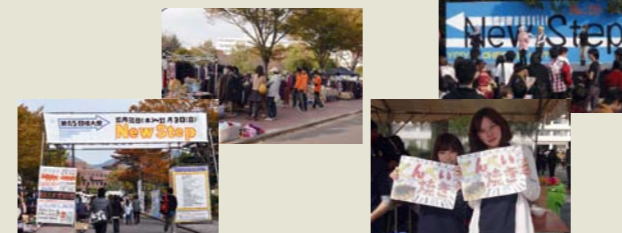
GULIPは学部や学年の異なる学生たちでチームを編成し、企業から出された課題を検討、解決策を提案する問題解決型の長期インターンシッププログラムです。民間企業5社、岐阜県商工労働部、本学キャリアセンターからの課題に7チームが挑戦。中間発表では企業からの鋭い質問に苦勞する場面もありましたが、最終成果報告会では、賞賛の言葉をいただきました。



第65回岐大祭が開催されました

平成25年10月31日(木)～11月3日(日・祝)

学生が自主的に企画・運営を行う岐大祭。今年は『New Step』をテーマに、「新しい一歩」を踏み出す契機になってほしい」と願って開催されました。当日はゼミやサークル、各種有志グループによる趣向を凝らしたさまざまな企画が登場。最終日は雨となりましたが、盛況のうちに終了しました。たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました。



第27回岐阜シンポジウムを開催しました

平成25年11月2日(土)

「再生医療最前線2013～日本で再生医療は実現できるか?～」と題したシンポジウムを開催しました。東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センターの中内啓光教授が「iPS細胞が可能にする新しい医療」をテーマに基調講演を行いました。続いて岐阜大学医学系研究科の手塚建一准教授が「岐阜大学歯髄細胞コレクション」、岐阜薬科大学の福光秀文准教授が「脊髄損傷の細胞移植療法開発への試み」について講演しました。



平成25年度学位記授与式を挙行了しました

平成26年3月25日(火)

長良川国際会議場において平成25年度学位記授与式を行い、学部学生1,343人、大学院学生520人が卒業・修了しました。森秀樹学長は「広い視野を持ち、強い人間であってほしいと願います」と言葉を贈りました。卒業生代表の地域科学部の西脇美緒さんと修了生代表の教育学研究科のドン・ス・チンさんはそれぞれ「4年間で得たものを胸に邁進していきます」「日本での経験によって成長できました。新たな舞台への一歩を踏み出します」と力強く決意を語りました。



岐阜大学パノラマツアーを公開しました

岐阜大学パノラマツアーは、地上360度及び上空100メートルからのパノラマ写真を利用し、学内をバーチャルに楽しむことができるWEBサイトです。自由に視点を動かしたり細部まで拡大することができ、大学内の道案内にも役立ちます。本学教員が共同研究で開発した技術を活用し、3億画素の高精細静止画像をつなぎ合わせて連続化しました。どうぞご覧ください。



岐阜大学パノラマツアー
<https://gproject.gifu-u.ac.jp/panoramatour/>

第38・39回岐阜大学フォーラムを開催しました

平成25年11月13日(水)・平成26年1月16日(木)

一流の研究者や企業人を招いて開催する「岐阜大学フォーラム」。第38回では「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を設計した建築家の伊東豊雄氏が「私達は明日どのように住むか」をテーマに、地方にこそ未来に向かう力があると述べられました。第39回では(独)理化学研究所仁科加速器研究センター准主任研究員の肥山詠美子氏が、「マイクロ世界の3体問題～私はこうして研究者になった～」について講演しました。



岐阜市立女子短期大学との連携協定を締結しました

平成25年11月14日(木)

岐阜大学応用生物科学部と岐阜市立女子短期大学が連携協定を締結しました。両大学が有する人的・物的資源を有効活用し、教育研究の向上・充実を図ることが目的です。今後、学生の交流のほか、岐阜市立女子短期大学の農業体験学習・環境学習・制作演習において、岐阜大学の農場や演習林を利用して技術指導を行います。また、教職員の共同研究等においても連携・協力を図ります。

